

学際的研究プロジェクト支援経費 平成 18 年度実績報告書

平成 18 年度「メディア研究機構」プロジェクトの活動報告

「メディア研究機構」の目的

「メディア研究機構」は、「メディア情報学」の院生および東北大生がテレビやラジオの放送・報道現場で働く人と一緒にメディアについて専門的に研究し、併行して彼らの協力のもとに制作などの実践活動に取り組むことによって、とりわけ「メディア・リテラシー」の観点からメディアについて学ぶことを目標にする。以下の企画は、その目的を遂行するための取り組みである。

企画1 2006. 5.27 内 容	「研究会『新聞論説の現場から』」 講師：隈元信一(朝日新聞東京本社論説委員) 会場：せんだいメディアテーク7F 論説が出来上がるまでの裏側を仔細に説明・報告。加えて情報の送受信メディアが多様化する中で、朝日新聞はいかなる戦略を立てているのかについて語る。 (参加者 20 名)
企画2 2006. 9.30 10. 1 内 容	「カメラ撮影教室」 講師：小山 帥人(元NHKカメラマン、大阪芸術大学講師) 会場：せんだいメディアテーク7F 撮影の方法・技法入門概説、参加者が実際に撮影した映像についてコメントをもらい、また講師自身の映像作品を使って構成や伝え方などの解説など、実践的講座を行う。 (参加者 20 名)
企画 3 2006.11.3 内 容	公開研究会「マスメディアの何が問題なのか ～朝鮮半島・イラク戦争の報道の現場からの検証」 講師：野中章弘(アジアプレス・インターナショナル代表) 会場：せんだいメディアテーク(7F 会議場) 朝鮮半島(北朝鮮、竹島問題、核実験など)を巡る報道のゆがみ、イラク戦争報道の偏りなど、いったい日本のマスメディアの何が問題なのか。今回は、ビデオジャーナリスト、野中章弘氏を迎え、同じ現場取材してきた独立系

	ジャーナリストの立場から、ビデオ映像などをまじえ、具体的に検証する。 (参加者 30 名)
企画 4 2006.12. 5 内 容	公開研究会「NHK ハイビジョン特集・キュメンタリー番組『イナサ〜風と向き合う集落の四季』を語ろう！ 講師：伊藤孝雄(元NHKチーフエンジニア) 会場：せんだいメディアテーク(7F スタジオB) 2006 年度『「地方の時代」映像祭』にて「放送局部門最優秀賞」を受賞したNHKドキュメンタリー番組「イナサ〜風と向き合う集落の四季」のディレクターを務めた伊藤孝雄氏を招き、企画・構成・編集など制作に関わる活動を詳細に報告していただき、その後参加者の間で「メディア・リテラシー」の観点から議論・意見交換を行った。 (参加者 20 名)
企画 5 2007.2.25 内 容	古居みずえ監督、映画『ガーダ』上映会 古居みずえ講演会 講師：古居みずえ(アジアプレスインターナショナル会員、ジャーナリスト) 会場：・せんだいメディアテーク7Fシアターホール パレスチナ人女性ガーダの自立および平和を願うパレスチナ人の声を主題にした映画「ガーダ」の上映および監督の古居みずえ氏の講演会。大手マスメディアが決して伝えることのないもうひとつのパレスチナを知ることによって、オルタナティブメディアの使命や可能性を問う。 (入場者:300 名)

情報科学研究科にとっての意義・貢献度

メディアの不祥事が続き、そのありかたを問う議論が盛んである。このプロジェクトでは、この状況を受けて、メディアについての研究を単に研究室での理論的レベルにとどめず、放送現場で働く人と協働して行ってきた。この取組みを通じて、マスメディア、オルタナティブメディアなどの放送メディアの現状をさまざまな観点から論議し、より専門的に高度情報社会におけるメディアの役割や機能について研究が進んだ。メディアにおける情報の価値が厳しく問われる現在だからこそ、情報科学における本プロジェクトの意義はきわめて大きい。今後引き続き、メディア研究の理論および実践的活動の拠点としての役割を一層強化し、大きく前進させたい。